

新3号館 「開学50周年記念館」完成！



理事長就任にあたって

第14回神奈川産学チャレンジプログラムにて
遠山・細江ゼミ 長田・西間木・村上チームが再優秀賞を受賞

湯河原で商大生、活躍中！

平成29年度 横浜商科大学
学位記授与式挙行政

『電力自由化と電力取引』出版にあたって

高齢化社会と「エンディングノートの普及」について

「つるみの魅力発信プロジェクト」

HOGO animal future project × 岩倉ゼミ

佐々ゼミ × 吉田（隆）ゼミ合同企画
「駅からハイキング」商品化と「YoT」グッズの記念品配布

第50回飯山祭開催！

学術研究会 研究報告会開催

二〇一七年二月より着工していた、新三号館（開学五〇周年記念館）が今年三月にいよいよ完成しました。

東側、南側からみえる外観は、各窓に設けられた、多数の白いシェードが国道から見ても白亜の建物として強い印象を受けます。

また、北側は通学路から最も視界に入る角度ですが、設置された外階段が建物の近代的なイメージにユニークさを与え、一見して艦船や前衛的美術館のイメージです。

内部は、地上三階、屋上の構成となっており一階、二階はおもに大中小合わせて六教室と多目的に使用できるスタジオがあり、横浜港や房総半島まで見渡せる三階は、大きなカフェテラスと、授業や研究の合間に自由に寛げるコモンズルームが学生の皆さんを待っています。

さらに屋上へ上がると、横浜を一望できる眺望と合わせ人工芝を敷きつめた多目的広場があり、フットサルや部活動を始めたアーク



新3号館「開学50周年記念館」竣工



ティビティに使用できる空間となっております。

現在、本学では「実効型ビジネス教育」として、様々な授業でアクティブ・ラーニングを実践し、連携した企業や地域への成果を上げています。

今後は、増設されたこれらの教室から、一層沢山の教育効果が生み出されることになるといえます。



昨年一月一日に本学の理事長に就任して以来、年末年始にかけて若手中堅の教職員と意見交換を兼ねて面談する機会がありました。同時に、キャンパスの廊下ですれ違ふ多くの学生諸君と接する機会がありました。とくに印象深かったのは、大学運営の事務機能を担う職員の方々が、教育事業に参画することに強い意欲を持っている点です。

元来、高等教育機関である大学は、基本的には学生が学習するための場所ですが、同時に体系的な学習を指導する教員と学習環境を整備する職員の協力が不可欠な場所でもあります。

対応すべきこととして、まず考えなければならぬのは教員の学習指導体制の改善です。

意欲のある学生に対しては、その理解能力に合わせた分かり易い授業を行い、初歩的な学問的知識世界に導くことです。意欲に欠ける学生に対しては、意欲を喚起するために、学問することの面白さを教員自らの体験を通して語り掛けることです。言つのは易しいですが実行するのは難しいことです。



理事長就任にあたって

学校法人横浜商科大学
理事長 清水雅彦

しかし、これらを実行しなければ本学における学習指導体制を改善することはできません。

他方、教育環境のハードウェアである教室や研究室などの建物と施設設備についても現状に甘んじることができません。特に研究室は、学習指導に直接に関わる教員の研究活動の拠点であるにも拘わらず、著しい老朽化のために有効に活用されていないのが現状です。財政状況が許す限り、早急に改善しなければなりません。

そのような大学において、最近では、せっかく学習機会を獲得しながら学習意欲に欠けるか意欲を喪失しつつある学生が散見されます。

本学では、学習意欲を持つ学生は言うまでもなく、意欲に欠ける学生諸君にも積極的な指導を行うことを大きなそとして重要な教育目的としています。

現状は必ずしもこの教育目的に叶う指導がなされていないかもしれません。だとすれば、理事長として積極的に対応しなければならぬと考えます。

研究室は教員個人の占有物ではなく学生との面談やゼミナールなどの少人数教育の場でもあります。したがって、学習指導体制の改善にも資するものです。以上のことから、理事長として、まず取り組むべき課題であると認識しております。

第14回 神奈川産学チャレンジプログラム

京急グループを活性化させるインバウンド向けITサービス・VR映像アーカイブ「KQ360」を発表



遠山・細江ゼミ 長田・西間木・村上チームが最優秀賞を受賞

・表彰式代表プレゼンチームにも選出ー

「第14回神奈川産学チャレンジプログラムを振り返って」

最後になりましたが、このよつな賞を頂いたのは私たちの力だけでなく、沢山の教員・職員の方々からご指導を頂いたからに他なりません。本研究での経験を活かし、来年度も精一杯頑張っていきたいと思えます。

私たちは、株式会社京急システム様から掲示された「京急グループを活性化させるインバウンド向けITサービス」というテーマを取り組むにあたって、遠山・細江ゼミで研究を行っていた「Mutual Reality」というテクノロジーが解決できるのではないかと考えました。当初は、この技術を用いたインバウンド向けサービスのための提案を考えていましたが、グループ全社が撮影した映像を共有・利用できるシステムの必要性に気づき、VR映像アーカイブ「KQ360」が生まれました。

長田 大（経営情報学科三年）

去る平成二十九年一月一九日（火）財団法人神奈川経済同友会が主催する「第一四回神奈川産学チャレンジプログラム」の表彰式がにパシフィコ横浜にて行われ、神奈川県下の二〇大学、二四七チーム・九六七人の中から本学、遠山・細江ゼミに所属する長田大（リーダー・経営情報学科三年）、西間木聡史（商学科三年）、村上航暉（経営情報学科二年）、のチームが最優秀賞を受賞しました。

本学からは四チームが応募し、さらに最優秀賞受賞チームの中から三チームのみが行う代表チームプレゼンにも選出、授賞式当日に実施しました。長田チームは、株式会社京急システムから提示された課題「京急グループを活性化させるインバウンド向けサービスに対し、外国人観光客に対して新しい旅行体験を提供するためのVR映像アーカイブ「KQ360」というサービスを提案しました。

今年で一四回目の開催となる本プログラムで、本学から最優秀賞受賞チームが選出されたのは初めてのこと。また、表彰式当日のプレゼンチームとして商大参加チームが選出されたのも、もちろん初の快挙です。

西間木聡史（商学科三年）

遠山・細江ゼミの活動としてチャレンジプロジェクトに参加しました。資料作成などは大変でしたが、良い経験になりました。チーム作業を通して感じたことは、メンバーの考えを合わせることの大事さです。資料を作る際に自分とメンバーの考えを取り入れることで、今まで思いつかなかった新しい考えや視点を見つけることができ、より良いモノとなることを実感したからです。

結果として、イベント全体での最優秀賞に選ばれ、さらに三代表チームの一つとして表彰式の際に発表を行いました。



村上 航暉（商学科二年）



私は今回、チーム内唯一の二年生でした。元々は、三年生の皆さんが今期のゼミ活動として産学チャレンジプログラムの参加メンバーを募集していて、そこに参加させて頂きました。

産学チャレンジプログラムでは、主に提案内容のレポート提出と企業様に対するプレゼンの二つを行ったのですが、レポートの執筆が一番大変でした。私自身、誰かと共同で執筆するということが初めてで、試行錯誤しながら執筆していました。良いものが仕上がって、本当に嬉しいです。

来年度は、私達のゼミから多くの学生が産学チャレンジプログラムへ参加する予定なので、この経験を活かして次に繋がりたいと思えます。



湯河原で商大生、活躍中！

観光マネジメント学科 教授 中村純子

二年前から湯河原駅前商店街（明店街）のキャラクターを利用した活性化事業に神奈川県のアドヴァイザーとして関わっており、中村ゼミでは手作り市（通称ぶらん市）手伝い、意見交換会、さらに旅日記やマップ制作等で協力しています。

二〇一七年一〇月には駅前広場改修工事記念式典が執り行われ、湯河原町と明店街が合同開催、ぶらん市にゼミを中心に二二名の商大生が参加しました。

昨秋より「ゼミナル・アラ イアンス」を発足、異分野ゼミとの交流で新たなゼミ活動を模索しはじめました。

まずは経済学の伊藤ゼミと「アライアンス」を組み、一月二六日の第三回ぶらん市の手伝いを実施、そして二月一〇日に六名の学生が商店街役員、県庁担当者と意見交換をしました。キャラクターを利用した商店街の活性化として、子供の作品を展示する、物語性をもたせる、人気商品とコラボ、体操など様々な意見が出されました。

二月二五日の第二十四回ぶらん市では双方のゼミから計八名が参加、本部での手伝いを通じて訪問客と交流しました。当日は寒い中、梅の宴の時期でもあるため多くの人々で賑い、ステイジイベントも盛り上がりました。二ゼミで交替しながら本部に入り、空き時間は各テナントの店をめぐるなど、楽しみつつ活動を終えました。経済学、観光学の目線から商店街の活動、活性化のアイデアが練られるよう、期待しています。

今回は次年度のぶらん市、さらには湯河原で商大生と商店街を中心に街の人々がさらに交流し合える活動を構想中です。

平成29年度 横浜商科大学 学位授与式挙行



228名が社会へと羽ばたいて行きました。

学長表彰者の皆さん



学術賞 佐野文香



学術賞 富永希



学術賞 石田勇気



スポーツ賞 津野崎秀哉



特別賞 青木優勇助



特別賞 松尾彩



松本武雄賞佳作 金井工

三月一七日に平成二九年度（第四八回）学位授与式が滞りなく挙行され、二二八名（商学科一三三名、貿易・観光学科四八名、経営情報学科四七名）が卒業証書・学位記授与、学長賞（学術・スポーツ・特別の各賞）、松本武雄賞（懸賞論文）入賞者の表彰、教職免許状授与、同窓会・育友会（同窓副会長高岡修一郎氏）からの記念品贈呈が行われました。

これにより、横浜商科大学の卒業生は二〇九六七名となりました。

なお、表彰者は次のとおりです。（敬称略）

○学長賞 学術賞

- 商学科 佐野文香
- 貿易・観光学科 富永希
- 経営情報学科 石田勇気

○学長賞 スポーツ賞

- 経営情報学科 津野崎秀哉
- （剣道部全日本剣道選手権大会出場）

○学長賞 特別賞

- 商学科 青木優勇助（税理士試験二科目合格）
- 商学科 松尾彩
- （第一二回神奈川産学チャレンジプログラム優秀賞受賞）

○松本武雄賞入賞者

- 佳作 金井工（伊藤稜ゼミ）

式後は卒業記念パーティーと新三号館（開学五〇周年記念館）の内覧会が催されました。卒業記念パーティーは、卒業生はもちろん、在学生たちも祝福のため駆けつけ、参列した友人や教職員とともに思い出話に華を咲かせていました。

あらためて、卒業生の皆様への祝福とともに、今後のご活躍、心からお祈りいたします。



本学の出版助成を得て、可児滋教授との共著で日本評論社より、この『電力自由化と電力取引』を出版しました。本書は東日本大震災以降急激に進化した電力自由化と、それに伴い活発化している電力取引について様々な角度から記述しています。

第1部は伊藤が担当し、電力自由化と電力改革について、その歴史的経緯や外国の事例を紹介し、今後解決すべき課題や展望を記述しています。

第2部は可児教授の執筆で、内外の電力取引所の状況やその仕組み等を記述し、また一般のコモディティや金融商品とは異なる様々な電力デリバティブ取引について、多くの具体例を交えて解説しています。

これまで私は規制緩和とりわけ電力市場の改革の一つの研究テーマとしてきました。一方、可児先生は金融がご専門であり、これまで最先端の金融取引についてのご研究をされてこれ、生まれたばかりの電力取引のマーケットに注目されておられました。

そんな可児先生に二〇二二年に私が商大論集に書いた研究ノート「電力自由化の効果と諸外国の動向」イギ

リス、アメリカ、北欧モデルの考察」が目にとまったようです。

二〇一三年の春、教授会の後に可児先生が茶色の封筒を持って来られました。その中にはこの本の企画書が入っており、「一緒に書きませんか？」と誘ってくださったのが本書を共同で出版するきっかけとなりました。

当時、学部長をしていた私を気遣ってくださり、その後の出版社選びと出版社との頻繁なやり取り、また



『電力自由化と電力取引』出版にあたって

伊藤 穰

常任理事 経営情報学科教授

本学の出版助成の手続きなど執筆活動以外の雑事は全てを可児先生がやってくさいました。感謝の言葉もありません。

それから四年半が経ち、実際に本が出版上がってみると、もっと良い説明の仕方もあったらだろうという反省もあります。やはり嬉しいものです。社会科学の研究者の仕事が目に見える形になるのは、そう多いことではありません。この本が多くの人々の目に触れ、何かの役に立てれば幸いです。



高齢化社会と「エンディングノート」の普及について

小林二三夫 地域産業研究所長 商学科教授

の寄付を受けて東京大学高齢者社会総合研究機構が発足して、東京大学で学部横断的な老年学の講義と実践研究が行われています。

ニッセイ基礎研究所／東京大学高齢社会総合研究機構の講師が本学の講座ニコマを受け持ちます。本学は、商学に特化した大学という立場からも市場の約二割を占める高齢者市場を理解する講座が必要だと実感しています。高齢者市場は、日本国内ですでに一〇〇兆円と言われています。

本学の卒業生が、高齢者の多様な実態と高齢社会を正しく理解できれば、どのような職業に就いてもそこで関わる高齢者のニーズに対応することが可能になります。

もっとも重要なことは、高齢者が抱えている不安や問題を理解してそれぞれの立場から対応策を提示することです。

本学は、三年前に横浜市鶴見区と包括連携協定を締結しました。協定を実行するにあたり、本学地域産業研究所は、企業や行政の狭間にある社会に役立つこととして、独自のエンディングノートを作成して普及に取り組んでいます。

研究所には二二名の客員研究員がいます。福祉分野の専門家も多く、研究員の弁護士、公認会計士・税理士、行政書士、社会保険労務士、ケアマネジャー、終活カウンセラーなどがエンディングノートの書き方講座や高齢者個人が抱える個別の問題や不安の解決相談にいらっしゃいます。鶴見区と共催の講習会や相談会を開くだけでなく、数社の個別企業と共催でエンディングノート講座を開催しています。

いずれの会においても多くの参加者から感謝され、さらに進める力をいただいています。



柳田ゼミでは、「モバイル・Web・電子商取引」をテーマに、スマートフォンを活用やSNSでの情報発信など、さまざまな活動を行っています。現在取り組んでいるフィールドワークのひとつとして、横浜市鶴見区の魅力的なスポットやイベントをWebサイトやSNSで紹介する「つるみの魅力発信プロジェクト」があります。

介したいスポットを訪れ「Twitterでその模様を投稿することにもInstagram・Facebookページ・Webサイトに記事としてまとめたいです。」
例えば、チーム「ぼんぼこ」は、鶴見区馬場にある「馬場花木園」を訪れ、綺麗な藤の花や植物、散歩道の竹林や池など、各所の魅力をWebサイトやSNSで紹介しました。また、イベント「鶴見ウチナー祭」に参加し、沖縄の文化に触れながら、その模様を「Twitter」などでリアルタイムに発信しました。



鶴見区の魅力的なスポットやイベントをWebサイトやSNSで紹介する

「つるみの魅力発信プロジェクト」

柳田義継 経営情報学科 教授



読み手に刺さるような文章の工夫や、魅力を最大限に引き出すような写真の撮影など、SNSなどで効果的な情報発信をするためのさまざまな手法を、実際に体験しながら学んでいます。チーム「MONOS」は、鶴見市場

駅の近くにある「箱根駅伝記念像」を訪れ、記念像と同じ格好で写真を撮影したり、スタンプラリーのイベント「旧東海道ウォーク」に参加して鶴見区の各名所で記念撮影をするなど、ゼミ生自身も楽しみながらフィールドワークに取り組んでいます。現在、鶴見区の歴史にまつわる様々なスポットを訪れ、海外の方が鶴見区に魅力を感じてもらえるような取り組みも始めています。公式サイト「横浜つるみの街さんぽ」に、ゼミ生が紹介する様々なスポットやイベントの情報が掲載されていますので、ぜひご覧ください。

※「横浜つるみの街さんぽ」
<http://yokohama-tsurumiinfo.jp/>



公益社団法人アニマル・ドネーションとのコラボレーションで、「犬や猫を飼おうと思ったときに、保護犬・保護猫を飼おう」ということがスタンダードな世の中になること」を目的としたプロジェクト、その名もHOGO animal future projectを、二〇一七年一月から現在三年生のゼミ生と始めました。



保護犬・保護猫を引き取ることを普及させるにはどうすればいいのか？



HOGO animal future project × 岩倉ゼミ

岩倉由貴 商学科 准教授



このプロジェクトでは、日本の保護犬・保護猫の現状や問題点を学び、犬や猫を飼おうと思ったときの選択肢として保護犬・保護猫を引き取ることを普及させるにはどうすればいいのかについて話し合いました。

そして、飼い主の意識や飼育している動物との出会いの実態を明らかにするためにアンケート調査を行い、一万名近い飼育者からの回答を得ることができました。二〇一七年八月二七日に開催されたアニマルウェルフェアサミット二〇一七（一般財団法人クリスタル・ヴィ・アンサンブル主催）のセッション「保護犬・保護猫と暮らそう」にて、料理研究家の藤野真紀子さん、女優のとよた真帆さんと登壇し、アンケート調査の結果を発表しました。

また、中心となって活躍してくれた二人の学生にも登壇してもらい、実際に愛護センターを訪問した感想やプロジェクトを通して学んだこと、私たちにできることなどを話してもらいました。プロジェクトでは、教室やパソコンの前で学ぶだけでなく、実際に千葉県動物愛護センターにおけるボランティア活動の見学や横浜市動物愛護センターにも訪れることで理解を深めました。社会問題にも関心をもち、積極的にプロジェクトにかかわる学生たちを見て、動物たちの明るい未来が見えた気がしました。



昨年、本学の開学の地である鶴見区は区制九〇周年を迎えました。

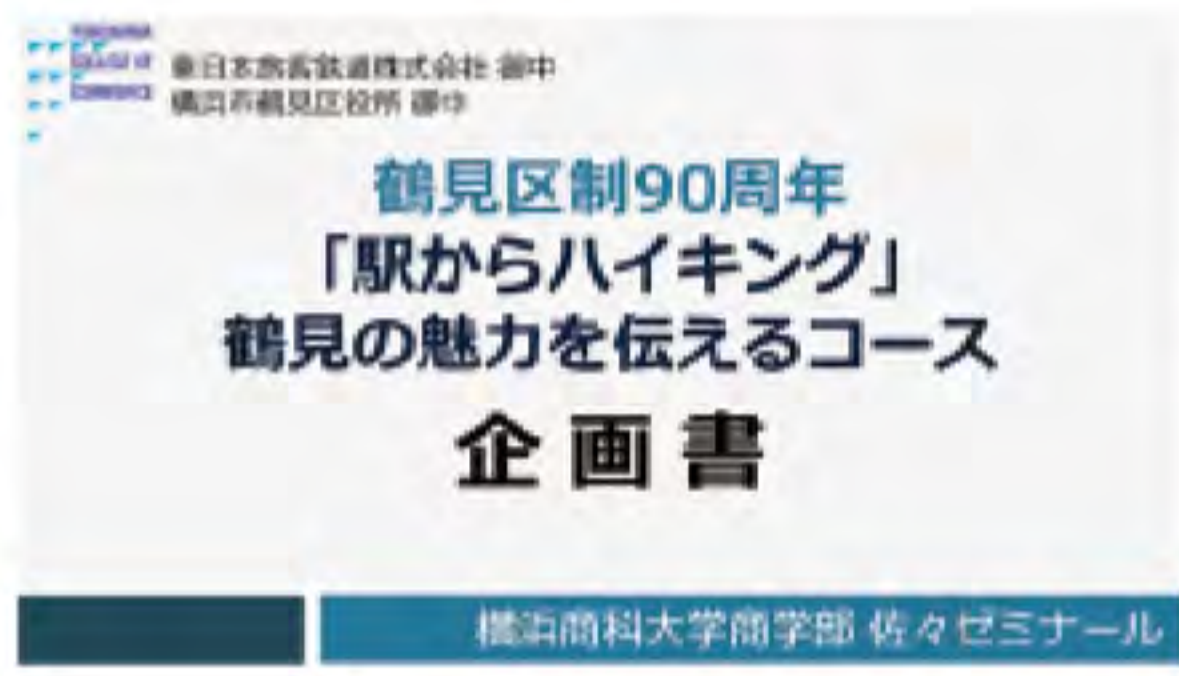
様々な記念事業が行われ、鶴見区と包括連携協定を結んで地域振興に取り組む本学も企画や実施に協力しています。

この一環として、本学とJR東日本、鶴見区役所の産官学連携により、JRが主催する「駅からハイキング」(JRの駅をスタートとゴールとする参加費無料のウォーキングイベント)において、「鶴見の魅力」を伝えるコース」を開設するプロジェクトが始まり、コースの具体的な企画を学生たちが担うこととなりました。



本学からは、起業家や経営後継者の育成に取り組む佐々ゼミナールに所属する学生と、商大オリジナルブランド「YOOT」のグッズ開発とインターネット販売に取り組む吉田隆弘先生のゼミ

ナールの学生とがプロジェクトに参加し、佐々ゼミ生がコース自体の企画と設計を、吉田先生のゼミ生がコース参加者に配布する景品の企画と作成を担当しました。



佐々ゼミでは、すべてのゼミ生が六つのチームに分かれ、五月から七月まで三カ月間をかけて鶴見区内の史跡や観光スポットなどを丹念に調査し、各チームがそれぞれに

「鶴見の魅力」を伝えるコース」を設計して企画書にまとめました。

そして、七月末にJR東日本と鶴見区役所の担当者の方々をお招きして発表会を開催し、全チームのプレゼンテーションを審査した結果、今回のコースが選ばれました。



鶴見の歴史や自然を楽しみ、工業都市というイメージとは異なる側面を発見できることをコンセプトとしたコースです。

一方、吉田先生のゼミでは、「YOOT」グッズの開発でご協力いただいているデザイナーの方と協議をしながら、JRから提示された条件を踏まえて、ゼミ生が景品の企画と作成に取り組みました。

景品表示法の規定により、単価を二〇〇円以内に抑えなければならぬという厳しい条件が課された中で、ハイキングの途中で

佐々ゼミ×吉田(隆)ゼミ合同企画 「駅からハイキング」と「YoT」記念品配布

佐々 徹 観光マネジメント学科 教授



拾った花や葉を押し花にしてしおりにすることができると考え出しました。今回のコースのコンセプトと見事に合致した素晴らしい景品です。こつた苦労の末、ついに二月二十四日、二つのゼミナールの学生たちが力を合わせて企画したコース、「鶴見区制九〇周年！現在(いま)から過去へ Let's go Time Travel」がスタートしました。

開催初日は天気にも恵まれたこともあって受付開始時刻前から参加申込みを待つ人びとの行列ができ、初日だけで三〇二人が参加。JRの担当者の方によれば、これは想定以上に多い人数であるということです。学生たちの一年近くに及ぶ地道な努力の結晶であるこのハイキング・コースは、三月二日まで開催されています。

平成二九年一月一日から二日の二日間、恒例の横浜商科大学大学祭「飯山祭」が開催されました。

開学五〇周年を迎えた本学は、飯山祭も五〇回を数えるに至りました。

今回も中庭には、各ゼミナールや部活動の模擬店が立ち並び、ステージでは様々なイベントやダンス、Cos.のライブステージで大いに盛り上がりました。

第50回！ 飯山祭開催

「テーマは『Colorful』」



一方の教室では、遠山・細江ゼミのVR機器のデモ展示や、昔遊び体験、軽音楽部のライブハウスと多彩なブースに来場者も楽しんでいただいていた様子でした。毎回ながら、夜遅くまで寝る間も惜しんで、準備から撤収まで尽力した大学祭実行委員のメンバーの皆さん、本当にお疲れ様でした。



先生方が研究成果を発表しています！

～学術研究会研究報告会～



学術研究会は、本学の教員と学生がおもな会員で、「横浜商大論集」や「横浜商大学生論集」の発行等、研究活動の推進をしています。この活動の一環として、教員が自らの研究成果を発表する「研究報告会」を毎年開催しています。

二〇一七年度は二名の教員が発表を行いました。

一号館二階ラウンジで昼休みに開催しているため、誰でも立ち寄りやすい雰囲気で行われています。

発表する教員は「学生にもわかりやすいプレゼン」を行うよう心がけており、同じ研究分野の教員が補足のコメントや質問を投げかけて、よりわかりやすい報告会になるよう工夫されています。参加したゼミ生が積極的に質問を出すなど、お昼のラウンジにちょっとしたアカデミックな雰囲気が生まれています。

今後も開催しますので、ぜひご参加ください。

二〇一七年度研究報告会開催一覧

- 二〇一七年
- ◆四月二六日 渡部啓郎 教授 観光マネジメント学科
バスクー豊かなノン・ネーションの時代
 - ◆五月二日 亀井隆太 講師 商学科
高齢者を支える見守り契約と財産管理契約の問題点
―任意後見との関わりを中心に―
 - ◆五月一八日 岩倉由貴 准教授 商学科
犬の価格はどう決まるのか
 - ◆五月二四日 諸上詩帆 准教授 観光マネジメント学科
部下のワームモチベーションを上げる理想の上司像
―インターナル・マーケティングからのアプローチ―
 - 二〇一八年
 - ◆一月三日 三谷 瑛 講師 経営情報学科(英語教育センター)
四年制大学進学・卒業に必要な要素とは？
～児童養護施設出身のフィリピン人学生の事例から～
 - ◆一月四日 浮田 善文 教授 経営情報学科
ペイズ理論による実験計画法に関する研究
 - ◆一月五日 遠谷 貴裕 専任講師 商学科
我が国一般企業におけるインセンティブ報酬契約がもたらす影響
 - ◆一月六日 木村登志子 特任講師 商学科(英語教育センター)
SNA理論を応用した日本人学生のフィリピン学生との異文化交流と語学プログラムの方向性
 - ◆一月九日 穴戸 学 教授 観光マネジメント学科
インバウンド観光における訪日教育旅行の役割と課題
 - ◆一月二〇日 東本 裕子 准教授 商学科(英語教育センター)
インターナショナルスクールにおける教育の特色と自己肯定感の育成に関する一考察
 - ◆一月二二日 吉田 孝子 特任講師 商学科(英語教育センター)
英語教育偏重の背景とは？
～英語教育の歴史的・イデオロギー的考察～



わが国一般企業の雇用形態は、欧米のそれとは大きく異なることが考えられる。終身雇用や年功序列が廃止されたとはいえ、新卒で入社した企業で一〇年以上いる割合は欧米と比較してかなり高い。

これは、実質的には廃止されたとはいえ、まだにわが国の企業慣行は新卒社員を育て、社員教育をもって、広く社会に貢献すること

我が国一般企業におけるインセンティブ報酬契約がもたらす影響

遠谷 貴裕 商学科 専任講師

も企業の目的とされている面があるためである。そのため、社員への企業への帰属意識は高く、報酬が努力水準の増加関数となっていない場合がある。

事実、わが国一般企業の役員報酬はアメリカのそれと比較すると約十分の一程度に抑えられている。

近年でこそ、一億円を超える社長や役員が増えてはきたが、その中には欧米の優秀な経営者を雇うために、彼らにのみ付されている場合もある。つまり、わが国一般企業においては欧米のような報酬を努力水準の上昇のための関数として成立していない可能性がある。そこで、本稿では欧米型の業績連動型の報酬体系を導入するのであればどのような方法がありうるかを検討するために、先行研究をわが国特有の企業に直接適用可能であるための条件を導出した。

本稿は、かかる修正を施したとしても、先行研究の結論を直接応用可能であるための十分条件は、株主と経営者の効用関数が加法分離可能かつ報酬支払いに対してリスク中立であることが明らかにした。

本稿を検討するきっかけとしては、経営者報酬に関する実証的な分析を行っても、欧米のそれとは異なり、有意な結果が出なかったことがあげられる。

欧米よりもわが国一般企業の経営者が報酬を経るための機会主義的な裁量行動を行わない理由があるのであれば、それは何か、また、そうした問題を考慮した実証的な分析を行うためのモデルとして何が考えられ、欧米の研究のどの点を修正したらよいかを検討する材料とするために行ったものである。企業への忠誠心をどのようたハラメータにより検証するかなど今後の課題は多く、さらなる検討が必要である。





新三号館 キャンパスライフ

現在、二〇一九年度版大学案内も製作中です。
巻頭で紹介した新三号館ですが、学生たちの協力を得て、色々とキャンパスライフを想定しながら、撮影を行いました。

編集後記

かつて印刷媒体だった学報。広報委員会時代に企画、編集した。その後、再び入試広報センターの広報担当として学報を企画・作成することに。WEB発行になったものの、メンバーが和気藹々とし企画・校正も楽しかった。色々ありがとう！
(MIKE)

穏やかな春。明日から始まる新年度。どんな学生さんに見えるのか、ドキドキ。動物好きの楽しいメンバーと学報に携われ、楽しかった。
多くの人に読んでもらえますように！
(KAEDE)

大学報では、学生やゼミの活動を紹介していますが、学生が様々な場面で楽しく活躍していることが本当に嬉しく、そして誇りに思っています。学生の皆さんのますますの活躍、期待しています！
(Yoshi)

四月からの組織改変により、このメンバーでの大学報制作は、これで最後。
寄稿いただいた先生方、学生の皆さん、ご協力いただいた皆さん全てに感謝します。編集メンバーの皆さんもお疲れ様でした。
(Y)